

かつてない甚大な被害

7月末に発生した新潟・福島豪雨の被害は、地域にかつてない被害をもたらしました。只見町では、床上浸水100棟、床下浸水250棟、家屋等流出10棟、金山町では、床上浸水92棟、床下浸水17棟、全壊家屋7棟、その他非住家にも多数の被害がでています。（8月3日時点）

いまだ通行不能の地域も

只見町・金山町とも、豊かな森林をもつ山々に囲まれ、普段ならば清らかな流れを誇る、いく筋もの川が流れ、四季の移ろいの美しいエリア。川釣り、登山、スキー、あるいはSLなど、観光客にとっての魅力もたくさんあります。

けれども現在、被害地域内では、いくつもの橋が落下したり、通行不能になっていたり、土砂崩れによって道路が寸断されているなど、住民の生活に大きな支障をきたしています。

ボランティアによるお手伝いを必要とされる家屋等は、まとまってある場合だけでなく、点在していたり、車では近くまで入れない場合もあります。

土砂災害のため復旧には多くの人手が必要に



被害にあった方たちは、親戚の家に身を寄せたり、なんとか片付けた自宅の2階などで寝起きをされたりしておられます。金山町では共同生活をされたり、町営住宅に入居された方もおられるとのこと。いずれも、慣れない環境に疲労もたまっています。

今回の水害は多量の土砂が家屋に流入しているため、各家庭の被害は甚大です。

普段の生活を取り戻すには、泥などをかきだし、畳などをあげて床下の消毒などをし、家財道具などを廃棄したり、整理したりし、新たに畳をいれたり、生活用品を整えたり、とたくさんの手順と手間・時間がかかります。



今、一人でも多くのボランティアを！

現在、災害ボランティアセンターには、住民の方々からボランティアにきてほしい、という電話がたくさんかかってくるようになってきました。住民の方々の生活の一日も早い復旧のために、一人でも多くのボランティアの力が必要です

只見町災害ボランティアセンターで住民からの「ボランティアに来てほしい」コールを受けているのは、地元の女性陣。「顔の見える関係」を最大限に生かしながら、ていねい、かつ的確にニーズをキャッチしていきます。地元の人と話せるので、住民の方たちも安心して電話をかけてきておられます。

住民のおひとりは「長いことここに住んでいるけど、こんなにひどい災害は初めてだよ。水だけじゃなくて泥がたくさん入って、どうしたらいいか、って思っていたら、ボランティアさんが来てくれて本当に助かっている。まだまだ先がみえないけれど、皆さんといっしょになんとかがんばっていききたいね。」と話してくれました。

ボランティアにきてくれた方からは「なにもかも泥まみれなので、一つひとつ丁寧に洗ったり、整理したりしなければならぬので大変です。運びださなければならぬものも本当にたくさんあり、お年寄りの方が多い地域なので、もっともっとお手伝いしたい、って思います。みなさん、ぜひボランティアにいらしてください」とのメッセージが寄せられました。



金山町では、災害ボランティア経験のある人たちのなかから案内役になっていただき、地域の区長さんたちなどとお話をし、被害状況を把握しています。ボランティアが必要な地区には、必要人数にボランティアをグループ化してグループ単位で担当地区に行って活動をしています。

高齢化率が県内でも非常に高い地域である只見町・金山町では、お年寄り同士の助け合いも活発にされていますが、泥かきや畳あげなど、力仕事にはぜひ若い力を借りたいところです。

